

生まれてきてくれて ありがとう



▲下沢さくらちゃんと佐々木町長

▼震災生まれの子どもたちへ

希望の「君の椅子」（以下希望の椅子）を贈る剣淵の会が主催し、東日本大震災が発生した平成23年3月11日、岩手県で生まれたお子さん20名に希望の君の椅子と絵本を贈りました。

この取り組みは、君の椅子事業を行っている剣淵町、東川町、愛別町の3町が岩手県、宮城県、福島県で生まれたお子さん104名のうち希望の椅子の受け取りを希望された方に贈られるもので、剣淵町は岩手県を担当し、お子さんに椅子を贈りました。

佐々木町長、磯田君の椅子プロジェクト代表と竹内希望の椅子を贈る剣淵の会事務局代表等で、直接椅子を手渡してきています。



▶金属は一切使わず、竹くぎを使う等、全て木で作られています。



◀「たくましく未来へ」とメッセージが刻印されています。

▼停電や断水等、困難の中で誕生

平成23年12月11日～12日、翌年1月17日～18日、2月9日の3回の日程で岩手県宮古市、花巻市、北上市、一関市、二戸市、八幡平市、奥州市、盛岡市を訪問しました。

家族の方からは震災の日に陣痛が始まり、車で病院に向かう途中の信号機が動いていない等不安の中で病院にたどり着いたこと、出産を終えてからベットが大きく揺れてどうなるかと思ったことや、ライフラインである水道が止まり不安な生活を送った等、震災時を振り返りながら話をしてくれました。

▼たくましく未来へ

宮古市に居住の下沢大樹さん、悦子さんの長女さくらちゃんに「希望の君の椅子」最初の1脚が手渡されました。悦子さんのお母さんは宮古市内で津波の犠牲になつており、「3月11日は悲しみと喜びの半々の日だが、大きくなつたら皆に祝福されたことを伝えてやりたい」と話してくれました。

盛岡市に居住の小松晋一郎さん、容子さんの長女志保ちゃんは今月亡くなられた晋一郎さんのおじいさんが命名しました。おじいさんは大槌町で被災し、盛岡市に身を寄せられていたそうです。「本当は別の名前を用意していたが、名前には震災があり気持ちをしっかりと持って前に進もうという思いが込められている」と晋一郎さんは話してくれました。



▲写真は北上市の阿部たいよう君です。後方右から2番目が磯田代表です。

また、贈呈家族の皆さんからは、

いつか子どもが大きくなつたら、北海道の3町を訪ねてみたいと笑顔で話していました。

「生まれてきてくれてありがとう」「君たちは希望の光だ」の気持ちをかたちにした、この希望の椅子を、将来、辛いことや悲しい出来事に出くわしたり、人との絆や愛情に自信が持てなくなつた時にこの言葉を思い出させる椅子であることを願っています。

▼寄せられた善意

希望の椅子は町民有志の資金協力により賄われており、平成24年2月14日現在で剣淵中学校生徒会から寄せられた11,700円の募金を合わせ、78件（団体、個人）635,402円もの寄附が希望の椅子を贈る剣淵の会に寄せられました。



▲2月9日に剣淵中学校生徒会役員の方が寄附してくれました。